藤城小学校保護者の皆様・そして６年生のみなさんへ　　令和　３年　３月16日　発行

雲の上にはいつも・・・

【No.19】藤城小学校　校長室（加藤尚登）より

あと１週間あるけれど，「卒業　おめでとう」号

「雲の上にはいつも」何があるんだろう。昨年，孫に尋ねたところ，小2は「宇宙」，4歳（今は5歳）の子は「太陽」と答えた。正直，ドンピシャでびっくりした。発行している私自身，「太陽」のつもりでこのタイトルにしたからだ。どんなに土砂降りの雨でも，重苦しい曇り空であっても，そう，雲の上にはいつも太陽があるさ！ という「ケセラセラ」的な「だいじょうぶだよ」という意味を込めた。しかし，何号か出して気づいてしまった。「しまった！ 夜は雲の上に太陽がない！」と。でも，このタイトル，結構気に入ってる。みなさんはこの「...」に，どんな言葉を入れていましたか？

♪ あなたに会えて自分が見えた ／ いつもあなたが包んでくれた その大きな心で ／ 前が見えなくなった時
あなたが希望をくれた ／ 逃げ出したくなった時　あなたが勇気をくれた

今 私ができること それは輝くこと ／ あなたがくれたこの翼 ／ 夜明けの光を浴びて
明日に向かって輝くから ／ これからもずっと 見守っていて ♪

これは6年生のみなさんが小学校最後の曲として音楽の時間に練習している「夜明け」。そう，昨年6月にNo.14で紹介した旭川商業高校吹奏楽部の合唱曲。縁あって，今この曲を練習しています。緊急事態宣言のために，つい先日まで歌うことができなかったので，斉唱としての練習。何らかの形で保護者の皆さまにお届けできればと考えております。

さて，6年生のみなさん。とうとう来週の今日には卒業です。お家の方とすべての教職員，来賓の皆さまとともにすごす最後の授業。参列者も内容も縮小しての実施となりますが，可能な限り多くの祝福を贈りたい。 私自身，68名　一人ひとりに卒業証書を渡せることがとっても嬉しい。担任の先生の呼名に，誇りをもって「はい」と答えるみなさんに，6年間の頑張りに対する尊敬とねぎらいの思いを込めて，おめでとうを伝えたい。

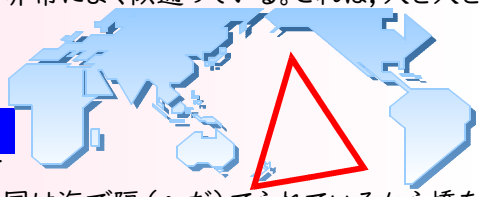
そっと静かに思ってください。・・・・となりに座っている友だち。6年間背負ったランドセル。毎日歩いた通学路。見守り隊の方々。窓から差し込む陽の光。給食のおいしそうなかおり。慣れ親しんだ教室。いつも一緒だった先生。そして，誰よりも大切な大切な家族・・・・。そう，そんなすべてが，今の自分につながっている。だからぜったいにひとりじゃない。ひとりにはなれない。安心して，もっと自分らしく，もっと自分になる道を進んだらいい。4月からの中学校という社会で，思いっきり輝いてください。

社会は「信じる」ことで成り立っている。だから 「支え合う」んだ！

毎年，卒業生に語っていることですが，私たちが生き，生活している社会というのは，私があなたを，あなたが私を信じることで成り立っています。信じているからこそ他人の心の痛みを自分のことのように感じたり，感動の涙にもらい泣きしたりする。だから人と人とは支え合います。その，支え合うしくみのことを「社会」といいます。たとえ生まれたばかりの赤ちゃんであっても立派に家族を支えている。だって，赤ちゃんの寝顔を見ているだけで幸せな気持ちになるでしょ。だから，あなたはここにいるだけで，それだけで必ず誰かの支えになっている。みなさん一人ひとりがいるからこそ，社会が成り立っているのです。信じること。支え合うこと。それが藤城小学校の『思いやりの心をもって生き生きと活動する』ことなんです。

太平洋に広がるポリネシア。ハワイ諸島とイースター島，そしてニュージーランドを結ぶ巨大な三角形の地域。ハワイとニュージーランドの距離は約8000kmもある（これはロンドンと北京を結ぶ距離に等しい）。この広大な海域に散らばる島々に暮らしているポリネシア人だが，不思議なことに使っている言語だけではなく，その文化までが非常によく似通っている。これは，人と人との交流があったとしか考えられない。島と島は数千kmも離れているのに，なぜ？・・・・

実は彼らの祖先は，人類史上初めて遠洋航海を実践した民族「ラピタ人」であるとされる。紀元前1500年もの昔に，数千kmもの航海を成功させていたようだ。



島と島は海でつながっている？！ 見方を変えると そうなるなぁ

以前，あるテレビ番組でポリネシアのことを放映していた。そのとき，偶然耳に入ってきた言葉。「ポリネシアの島々は，海によってつながっている」!!! 日本では本州と四国は海で隔（へだ）てられているから橋を架（か）け，九州と北海道はトンネルを掘ってつないだ。だがポリネシアはまるで違う。「すべて海でつながっている」と・・・・。

なんか，いいよなぁ。この感じ方。私たちが弱みとしてとらえる海の存在を，つながるための「強み」ととらえている。このように，見方を変えると，まったく新しい事実を発見することは多い。新型コロナのこともあり，一方に偏（かたよ）ってばかりの日々を過ごすと，少しばかり心が固くなってしまう。見方を変えると気づきが生まれ，心は揺れ始めます。 試合で優勝できたのは，負けたチームがあるから。影ができるのは，反対の方向から光が射しているから。もしそんなふうに，ものごとの二つの面を見つめることができたら，喜びはいっそう輝き，哀しみはより深まるんだろうな，と。ひょっとすると，コロナ禍で生まれる価値や能力もあるかもしれない。〇〇はこうだ，という 決めつけはよくない。 いずれにせよ「雲の上にはいつも太陽があるさ」と，深刻にならず，ゆっくり進めばいい。つまずいて転んでしまったら，また立ち上がって歩き出したらいいだけだ。そう，君たちはできる。できるとも。

この藤城小学校で関わったすべての人・時・モノが，君たちの中にある。 ちょっと早いけど「卒業おめでとう」だ。